



**Data**

監督・脚本：ジャン＝ステファ  
ヌ・ソベール

原作：ビリー・ムーア

出演：ジョー・コール／ポンチャノ  
ック・マブラン／ビタヤ・パ  
ンスリンガム／ソムラッ  
ク・カムシン

### ■■■ショートコメント■■■

◆チラシには「世界的なベストセラー自伝小説を完全映画化！」と書かれている。その著者は、イギリス人の元ボクサー、ビリー・ムーアだ。彼はタイでの薬物による逮捕、刑務所への収監、そして刑務所内での殺人、レイプ (?), 汚職等々を体験しながら“ムエタイの戦士”になっただけだ。

冒頭、ビリー（ジョー・コール）がボクシングの試合に臨むシークエンスが描かれるが、とにかく暗い。また、手持ちカメラの撮影は不安定だ。そして、その試合で彼がノックアウトされた後は・・・？

◆本作は、ラストにやっとビリーの必殺パンチで相手をノックアウトしたところで“光”が見えるが、それまではとにかく暗い。なぜ英語しかしゃべれないビリーがタイの刑務所に入れられることになったのかについて、本作ではあまりきちんとした説明はない。とにかくハチャメチャな手続 (?) の中、1人だけ肌の白いビリーは、雑居房の中で多くの先輩囚人たちにいじめられることに。男しかない刑務所内では“男色”がまかり通っているそうだが、本作ではその生々しいシーンも……。さらに、房の中では、首つり自殺する囚人までも……。もちろん、看守の買収や囚人同士さまざまな博打は日常茶飯事だ。また、時々女達が面会に来ていたが、本作を見ればタイの刑務所事情が少しわかってくる。これを見ていると、日本の監獄は天国みたいなもの・・・？

◆本作はドキュメンタリーではないが、冒頭からずっと手持ちカメラによる暗いシーンが続くので、いい加減疲れてくる。また、いじめられっぱなしのビリーは、いくらもがいても浮上できないから、その面でもいい加減うんざり。ムエタイの道を発見した後は、それ

に目覚め、『ロッキー』シリーズのロッキー・バルボアのような前向きな生き方に変わるのかかと思っていると、いやいや……。また、試合前にもあれやこれやのトラブルが……。しかして、本作のハイライトは……？

◆『ロッキー』シリーズはもちろん、『ああ、荒野』前編後編（『シネマ 41』51頁）でも、そのハイライトは手に汗を握るリング上での攻防戦だった。そこでは、俳優たちの肉体改造を含む血のにじむような努力の他、映画だから当然“演出の妙”が腕の見せどころになっていた。しかし、本作は……？

もちろん、本作にも“演出の妙”はあるのだが、私にはイマイチ。そして、一発のパンチで相手をノックアウトさせてしまうシーンもいささか不自然だ。さらに、勝利したにもかかわらず、意識を失い倒れてしまったビリーのその後は……？チラシに書いてあるとおり「絶望を超える一撃」はわかるが、私には「壮絶なパワフルさと深い感動を放つ物語」とはちょっと遠い感じが……。

2018（平成30）年12月20日記